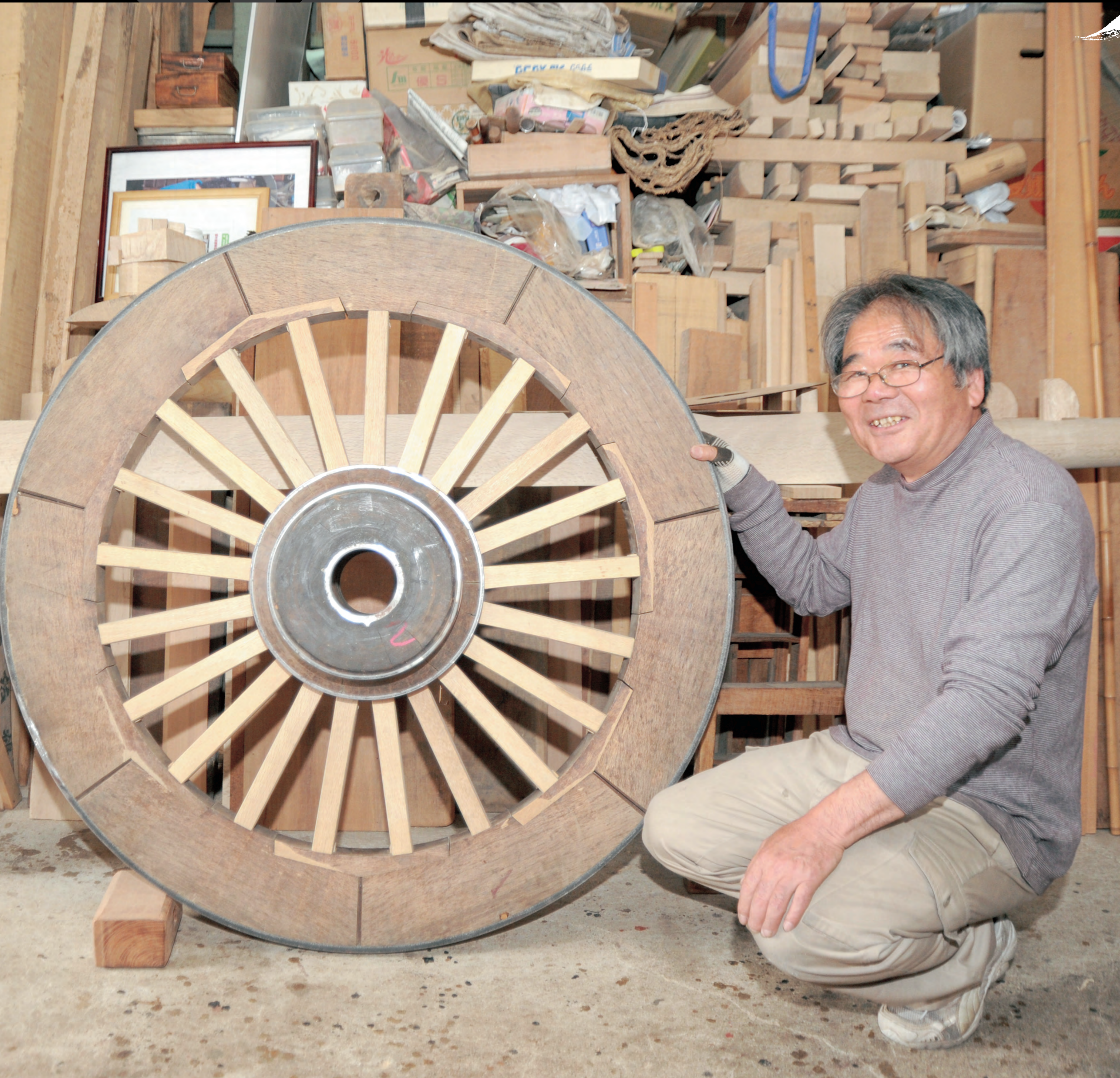


KANUMA NO MEISHO

# 鹿沼の名匠

乾 いぬい

芳雄 よしお



乾 芳雄

乾檜木工所の作業所には、所狭しと木材が並べられています。ここで扱う材料は主にカシ。

「世界中で作られている木製の車輪。材料は、その地域で一番硬く粘りのあるものを使う。日本の場合は、カシが適しているんだよ」乾さんは、やさしい眼差しで完成した車を見つめます。良い材料が手に入ると約10年は作業所に保管。「木がおさまる(落ち着く)」までしっかりと乾燥させなければ、製品にしたときにヒビが入って使いものにならなくなってしまいます。

車作りの第一歩は、カシの性質をよく知ること。カシの特徴である斑を生かした製材が肝心。これを失敗すると決して長持ちはしません。

一番難しいのは、ホゾの締め加減。屋台の運行で加わる重みや

湿度変化による変形などを考慮し、ホゾ穴に納めます。ちょうど良い締め加減は、音で聞き分けます。長年の経験と勘が左右する作業。作業場で独り、精神を集中させて行います。

時には、江戸時代に作られた車を修理することもあるという乾さん。「バラしてみないと、その作り方は見えない。丁寧な仕事があると勉強になる。それを修理するのだから、それ以上に長持ちさせるつもりでやるんだよ」と力強く話します。

長い時間をかけて完成させる車輪。祭りで運行を担う若い衆に喜んでもらえることが何よりの励み。祭りで誇らしげに街を練り歩く若い衆たちを見ることが楽しみだそうです。

現在では、県内はもとより埼玉県や群馬県などからも、その腕と人柄を頼って注文が入ります。

◆ 彫刻屋台の車師

カ 鹿沼市